

# つばめの話

小川未明

青空文庫



## 上

なつ夏の初めになると、南の方の国から、つばめが北の方の国に飛  
 んできました。そして、電線や、屋根の上や、高いところに止  
 まつて、なきました。広い野原の中を汽車がゆくときに、つばめ  
 は、電線の上に止まつて、じつとながめていたこともあります。  
 また、青い海辺に連なる電線に止まつて、海の方を見ていたこ  
 ともあります。けれど、また町の人家の店頭に巣を造つて日が  
 暮れるころになると、みんな家の中の天井の巢の中に入つて  
 やす休みます。そして、夜が明けると外に出て、空や往來の上をひ

らひらと飛びまわってないでいるのでありました。

太郎は、ほかの家には、つばめが巢を造って毎日、店頭から出たり入ったりするのを見て、なぜ自分の家にも巢を造らないのかと思いました。そして、このことをお母さんに話しますと、「つばめが、巢の造れるように、場所を造ってやらなければなりません。」

と、お母さんはいわれました。

「どうか、つばめが巢の造られるように場所を造ってください。」  
と、太郎はお母さんに頼みました。

太郎のお母さんは、このことを太郎のお父さんに話しました。  
お父さんは、店頭の梁へ箱のように板をつけました。こうして

おけば、どこかい場所ばしょがないかと探さがしているつばめが見みつけて、きつとここに巣すを造つくるにちがいないからであります。

太郎たろうは、早はやくつばめがここにくるようにと待まっていました。すると、ある日ひのこと、つばめが入はいりてきてこの場所ばしょに止とまりました。そのつぎには、二羽わでここにやつてきました。そして、そこに止とまって頭あたまをかしげてなにやら考かんえているようなようすでありましたが、その日ひから毎まい日にち、二羽わのつばめは、どこからか、土つちや、髪かみの毛けや、わらくずなどをくわえて運はこんできて、せつせと巣すを造つくりはじめました。そして、やがて完かん全ぜんに巣すを造つくってしましますと、雌め鳥すは巣すについて卵たまごを産うみました。夏なつの半なかばころには、もはやつばめの子供こどもがなくなりました。太郎たろうはかわいくて

たまりませんでした。そのうちに秋あきがきて、秋あきも半なかばを過すぎますと、つばめはどこにか、みんな飛とんでいってしまいました。

## 下

その明あくる年としも、またつぎの明あくる年としも、つばめは夏なつの初はじめになると、飛とんできました。そして、長ながい月つき日ひをそこおくに送おくりました。やがて秋あきがきてしだいに寒さむくなる時じぶん分ぶんになると、どこへか飛とんでゆきました。

太郎たろうが、小しょう学がく校こうの四ねんせい年せい生せいになつた年としの夏なつの初はじめでありました。どこの家うちにもつばめが帰かえつてきました。どうしたことか独ひとり

たろう うち  
 太郎の家にはつばめがきませんでした。太郎はどうしたのだろう  
 と、毎日、つばめの帰ってくるのを待っていました。

「きつと、そのうちに帰ってくるのでしよう。」  
 と、お母さんがいわれたけれど、なかなか帰ってきそうなようす  
 がありませんでした。太郎は、心配でならなかつたのです。帰  
 る路を忘れてしまったのではないか、それとも変わったことでも  
 あつたのではないかと思ひ煩つていたのであります。すると、不  
 思議なことにも、ある夜、太郎は夢を見ました。つばめが帰つて  
 きて、太郎に告げたのであります。

太郎さん、去年の秋のことでありました。私ども親子のもの  
 は、この国もだんだん寒くなつたから、南の暖かな、花の咲いて、

木の実の熟している夏の国へ帰ろうと思ひまして、ある小さな島までやつてまいりました。その島には、同じ南の国に帰る連れがたぐさいました。

そこから、広々とした海を渡らなければなりません。しかし、海にはいつも多くの船が走っています。その船のほばしらや、綱の上には止まつて、疲れを休めてまた旅をつづけるのであります。ある夕焼けの美しい晩方、私どもの群れは、いよいよ旅に上りました。そして、一日も早く花の咲いている、木の実の熟している暖かな国に帰ろうと思ひました。

すると二日めの夜のこと、思ひがけなく暴風雨に出あひまして、みんなまつたくゆくえ不明になつてしまいました。私とほか

の二、三のものだけが、やつと一その船を見出して、そのほば  
しらに止まって命が助かりました。私は、太郎さんにそのことを  
知らせにまいりました。と、つばめがいうと、太郎は夢がさめま  
した。その明くる日、一羽のつばめが古巣にきて、さびしそうに  
していました。夕方、どこにか飛んでいってしまいました。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 ㊀」講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第7刷発行

※表題は底本では、「つばめの話《はなし》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：ぷろぼの青空工作員チーム校正班

2011年11月22日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# つばめの話

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>